

# 音楽科学習指導案

指導者 甫出 頼之

- 1 日 時 令和7年11月15日(土) 第2校時(10:05~10:55)
- 2 学年・組 中学校第2学年1組 計39名(男子18名, 女子21名)
- 3 場 所 中学校音楽室
- 4 題 材 名 音楽をつなぎ合わせてつくろう
- 5 題材について

中学校学習指導要領では、音楽科の目標を「表現および鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成すること」としている。この目標を踏まえると、学校の音楽学習も、生徒が身近な生活や社会の中に存在する音楽に目を向け、それを自らの表現活動と結びつけていくことが重要になる。近年の音楽文化では、既存の曲を新しい視点で捉え直し、リミックスやサンプリングによって新たな音楽をつくり出す表現が広く行われている。このような発想に触れることは、身の回りにある音楽（あるいはその断片）を素材として再構築し、音楽の構成や仕組みを理解するきっかけとなる。そこで本題材では、誰もが知っている童謡「大きな栗の木の下で」を素材とし、あらかじめ分解された音楽の断片（音素材）を用いて、新たな音楽を創り出す活動をグループで行うこととした。この活動を通して、音楽の構成や仕組みに気づくとともに、リミックスやサンプリングといった現代的な音楽文化の面白さに触れることができる。また、仲間と協力しながら音楽をつくる過程では、互いの感じ方や発想を出し合いながら音を組み合わせることで、音楽の多様性を実感し、創造することの楽しさを味わうことをねらいとしている。

教材である「大きな栗の木の下で」は、旋律とリズムが単純で理解しやすく、誰もが歌唱経験をもつため、安心して創作の出発点とすることができる。また、シンプルな旋律だからこそ、分解して並べ替えた際の変化が際立ち、音楽の仕組みを理解するのに適している。授業では、旋律を小さな断片に分けて配布し、タブレット端末に導入したサンプラーアプリ上で、その順番を変えたり、繰り返したり、重ねたりしながら音楽を創作する。生徒は、聴きながら「どの音を組み合わせると響きが面白くなるか」「どんな並べ方をすると新しい感じが生まれるか」といった直感を働かせ、音のつながりや構成を試行錯誤することで、自分なりの音楽的なまとまりをつくり出していく。完成した作品は、原曲の面影を残しながらも新しい印象をもつものや、リズムや構成を工夫して独自の展開を生み出したものなど、グループごとに多様な形となる。生徒は、聴いて心地よく感じる流れができたときや、他のグループと聴き比べて自分たちの工夫を実感できたときに、達成感を味わうことができる。評価の観点としては、「分解された断片（音素材）を再構成することによる音楽的な効果や面白さを意識し「音のつながりや組み合わせ、全体の構成を工夫しているか」「新しい音楽をつくり出しているか」「仲間と意見を交わしながら取り組んでいるか」といった点を重視する。このように、ICTを活用した創作活動は、音を素材として構成的に捉える力と協働的に表現を生み出す力の両面を育むことにつながる。導入では、リミックスやサンプリングの実例を聴き、既存の曲を新しい視点で捉え直す表現の広がりを知る。オリジナル版とリミックス版を数曲聴き比べ、音楽を分解して組み替えることで新しい音楽が生まれることを体験的に確認する。また、鑑賞教材として取り上げる時に鑑賞するムジカピッコリーノの映像（第5シーズン16話「再出発」）は、「同じ素材でも構成や組み合わせを変えることで新しい音楽が生まれる」という本題材の核心を、生徒にわかりやすく提示するものである。

本学級の生徒は、1年次にサンプラーアプリを活用し、身の周りの環境音を取り込んで組み合わせる創作活動に取り組んだ経験をもっている。自分たちの生活空間にある音を素材として扱うことで、音楽

は必ずしも楽器だけでつくられるものではなく、身近な音も表現の一部になり得ることを実感し、ICTを活用した創作活動に親しみを感じている。また、文化祭ではダンス発表に取り組んでおり、音楽と身体表現を結び付けて仲間と協働する活動への関心をさらに高めている。このように、本学級の生徒は、ICTを活用した創作経験や、仲間と協力して音楽を表現する活動を積み重ねてきており、本題材においても分解された音楽を再構築する新しい創作活動に主体的に取り組むことが期待できる。

指導にあたっては、分解された既存の旋律を自由に並べ替えながら音楽を再構築できるよう、タブレット端末に搭載したサンプラーアプリ「Koala Sampler」を用いる。特にグループ活動においては、生徒が互いに操作を確認し合いながら試行錯誤を重ねられる環境を整えることが重要である。「Koala Sampler」は、最大64種類の音を読み込んで即時に再生できるだけでなく、ループ機能やエフェクト機能も備えており、音の長さやピッチを自在に調整することが可能である。そのため、単に音を並べるだけでなく、音楽的な工夫を取り入れやすく、本題材のねらいである「分解された音楽の分解と再構築を通した創作活動」に適していると言える。こうしたICT環境を活用することで、生徒は「操作」そのものを目的とせず、「どのような音楽をつくりたいか」という意図を意識しながら活動を進めることができる。また、リミックスやサンプリングなど既存の音楽を扱う表現では、原曲の作者や文化的背景への敬意（リスペクト）をもつことが大切であることを確認し、音楽文化との関わり方について考える。

## 6 題材の目標

- (1) あらかじめ分解された旋律をサンプラーで操作し、音素材を組み替えたり重ねたりしながら、新しい音楽を構成する。
- (2) グループで協力しながら多様な表現を工夫し、完成した作品を発表する。
- (3) 音楽の仕組みやリミックスの面白さに興味関心をもち、主体的に取り組む。

## 7 指導計画（全5時間）

| 次 | 時 | 学習内容                                                                                                                                                                                    |
|---|---|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 1 | 近年の音楽文化で行われているリミックスやサンプリングの実例を聴き、既存の曲を新しい視点で捉え直す表現の広がりを知る。オリジナル版とリミックス版を数曲聴き比べ、音楽を分解して組み替えることで新しい音楽が生まれることを体験的に確認する。そのうえで、課題曲「大きな栗の木の下で」を分解素材として提示し、この曲を自分たちなりに組み替えて新しい音楽をつくる活動の見通しをもつ。 |
| 2 | 2 | サンプラーアプリに読み込んだ音楽の断片（音素材）を操作し、音の順序や重なりを工夫して「大きな栗の木の下で（リミックス・バージョン）」を構成する。また、リミックスやサンプリングなど既存の音楽を扱う表現では、原曲の作者や文化的背景への敬意（リスペクト）をもつことが大切であることを確認し、音楽文化との関わり方について考える。                        |
|   | 3 | 創作した「大きな栗の木の下で（リミックス・バージョン）」の中間発表を行い、グループごとの構成の工夫や音の組み合わせを共有する。共有を通して、自分たちの作品の改善点を見つけ、次時の仕上げに生かす。                                                                                       |
|   | 4 | 発表で得たフィードバックをもとに、音の配置や構成を見直し、作品の完成度を高める。グループで意見を出し合いながら、リミックス・バージョンとして魅力を高め、最終発表に向けて準備をする。（本時4／5）                                                                                       |

|   |   |                                                                                                                                                  |
|---|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3 | 5 | 完成した「大きな栗の木の下で（リミックス・バージョン）」を発表する。他のグループの作品を聴き合い、構成の工夫や音の組み合わせに注目して感想や意見を交流する。既存の曲を新しい形で表現することの面白さや、活動を通して感じた音楽の多様性・作者に対してリスペクトすることの大切さについて振り返る。 |
|---|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 8 本時の目標

中間発表での意見や反省点を基に、作品の構成や表現を工夫し改善する。【思考・判断・表現】

## 9 「共に生きることを学ぶ音楽科の授業づくり」との関連

本校音楽科では、「音楽を通して、世界をより深く理解するとともに、人生を豊かにする子供」の育成を目指し、「音楽体験を通して自分自身や他者と対話をしながら音楽について思考する授業」を大切にしている。本題材「音楽をつなぎ合わせてつくろう」では、親しみやすい童謡を素材とし、分解された旋律を再構築する創作活動を通して、音楽を単なる受け取るものではなく、新しい価値を生み出す表現の素材として捉えることを促す。生徒はグループでの話し合いや中間発表を通じて、他者の意見を受け止め、自らの表現を見直し、改良していく。このような学習過程において、生徒は「音楽をどう伝えるか」を考え、仲間と協働して新しい音楽を生み出す喜びを体験することになる。こうした経験は、音楽を通して世界を理解する文化的な言語として捉える力を育み、仲間との対話を通して音楽について思考する力を深め、人生を豊かにする基盤となる。

## 10 学習の展開

| 学習活動と内容                                                  | 指導上の留意点（◆評価）                                                                                                 |
|----------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 前時の中間発表を振り返り、良かった点・改善点を全体で共有する。各グループで自分たちの作品の課題を確認する。 | ○ 発表後の振り返りシートやコメントを活用するように伝える。<br>○ 改善点を肯定的に受け止められるように促す。                                                    |
| 中間発表をふまえて、作品をもっと素敵にブラッシュアップしよう。                          |                                                                                                              |
| 2. グループで話し合い、改良の方向性（構成・音素材・リズムなど）を決める。                   | ○ 役割分担（操作、記録など）を明確にさせる。<br>○ 教師は問いかけを通して「聴き手にどう伝えるか」を意識させる。                                                  |
| 3. サンプラーアプリを使って作品をブラッシュアップする。                            | ○ 全員が操作や意見交換に参加できるよう配慮する。<br>○ 教師は巡回し、技術的支援と表現的助言を行う。<br>◆ 中間発表での意見や反省点を基に、作品の構成や表現を工夫し改善することができる。【思考・判断・表現】 |

4. 各グループが「今日の改良点」と「最終発表に向けた課題」を簡潔に共有する。

- 全体共有は1分程度で簡潔に行わせる。
- 教師は最終発表への期待を高めるまとめを行う。